

社会福祉士国家試験の今後の在り方について (2022.1.17)

～ 「地域共生社会」の実現を推進するソーシャルワーク専門職の拡充に向けて ～ by 厚生労働省

●令和2年6月社会福祉法改正においては、**地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズ**に対応するため、市町村が実施する**重層的支援体制整備事業**が創設され、附帯決議には「同事業を実施するに当たっては、社会福祉士や精神保健福祉士が活用されるよう努めること。」と明記されている。全ての市町村において、地域共生社会を実現できるソーシャルワークの実践力を習得した社会福祉士が活躍するため、資質の高い社会福祉士の量的拡充が求められている。



キーワードは
「地域共生社会」

地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズ：
老老介護、認認介護、老障介護、ダブルケア、ヤングケアラー、8050問題、
ゴミ屋敷、ひきこもり、ニート、社会的孤立

●**ソーシャルワークの価値規範や倫理観に関する理解**は、社会福祉士が多様な機能を担うソーシャルワーク専門職として実践を行う際の基盤となるものであることから、引き続き国家試験において出題するとともに、その出題方法の充実に努めるべきである。



ソーシャルワーカーの倫理綱領

2000年「ソーシャルワークの定義」採択 @国際ソーシャルワーカー連盟IFSW

2014年「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」採択 @国際ソーシャルワーカー連盟IFSW

この定義は、各国および世界の各地域で展開してもよい

	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義	社会福祉士の倫理綱領	精神保健福祉士の倫理綱領
中核をなす原理	人権	人間の尊厳	
	社会正義	人権	
	集団的責任	社会正義	
	多様性の尊重	集団的責任	
		多様性の尊重	
中核となる任務		全人的存在	
	社会変革		
	社会開発		
	社会的結束		
倫理原則	人々のエンパワメントと解放		
			クライアントに対する責務
			専門職としての責務
倫理基準			機関に対する責務
			社会に対する責務
		クライアントに対する倫理責任	クライアントに対する責務
		組織・職場に対する倫理責任	機関に対する責務
		社会に対する倫理責任	社会に対する責務
	専門職としての倫理責任	専門職としての責務	

「日本ソーシャルワーカーの倫理綱領」

「ソーシャルワーカーの倫理綱領」
@ (特非) 日本ソーシャルワーカー協会

「医療ソーシャルワーカー倫理綱領」
@ (公財) 日本医療ソーシャルワーカー協会

「社会福祉士の倫理綱領」
@ (公財) 日本社会福祉士会

「精神保健福祉士の倫理綱領」
@ (公財) 日本精神保健福祉士協会

マクロレベル

第29回 問題92

「ソーシャルワークのグローバル定義」（2014年）におけるソーシャルワークの中核をなす原理として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 個人的正義
- 2 集団主義
- 3 自民族中心主義
- 4 自己責任

5 多様性尊重 **社会正義** **集団的責任** **人権**

（注）「ソーシャルワークのグローバル定義」とは、2014年7月の国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）と国際ソーシャルワーク学校連盟（IASSW）の総会・合同会議で採択されたものを指す。

第30回 問題92

「ソーシャルワークのグローバル定義」（2014年）におけるソーシャルワーク専門職の中核となる任務として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 人々のエバリュエーション
- 2 技術開発の促進 **社会開発の促進**
- 3 自民族中心主義の促進
- 4 自己変革の促進 **社会変革の促進**

5 人々のエンパワメントと解放

（注）「ソーシャルワークのグローバル定義」とは、2014年7月の国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）と国際ソーシャルワーク学校連盟（IASSW）の総会・合同会議で採択されたものを指す。

第31回 問題92

「ソーシャルワークのグローバル定義」（2014年）に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- ① 定義は、各国および世界の各地域で展開してもよい。
- 2 中核となる原理の一つに画一性の尊重がある。
- 3 セラピーやカウンセリングを含めず実践する。
- ④ 複数の学問分野をまたぎ、その境界を越えていく。
- 5 経済成長が社会開発の前提条件になるとされている。

（注）「ソーシャルワークのグローバル定義」とは、2014年7月の国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）と国際ソーシャルワーク学校連盟（IASSW）の総会・合同会議で採択されたものを指す。

第33回 問題92

次のうち、「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」（2014年）が「ソーシャルワークの定義」（2000年）と比べて変化した内容として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 人間関係における問題解決を図ることが加えられた。
2000年「ソーシャルワークの定義」
- 2 中核をなす原理として、社会の不変性の尊重が容認された。
- 3 実践の基盤として、社会システムに関する理論の導入が加えられた。
- ④ 定義は、各国及び世界の各地域で展開することが容認された。
- 5 人々が環境と相互に影響し合う接点に介入することが加えられた。
2000年「ソーシャルワークの定義」

（注）1「ソーシャルワークのグローバル定義」とは、2014年7月の国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）と国際ソーシャルワーク学校連盟（IASSW）の総会・合同会議で採択されたものを指す。

2「ソーシャルワークの定義」とは、2000年7月の国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）で採択されたものを指す。

第34回 問題27

新しい社会的リスクやそれへの対処に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 ニートとは、35～59歳の未婚者のうち、仕事をしておらず、ふだんずっと一人であるか、家族しか一緒にいる人がいない者のことを指す。
ニート：明確な定義はないが、若年無業者に近い
 若年無業者：仕事も通学もしていない15歳以上34歳以下の独身者
- 2 ダブルケアとは、老老介護の増加を踏まえ、ケアを受ける人と、その人をケアする家族の双方を同時に支援することを指す。
ダブルケア：子育てと介護を同時に担う
- 3 保活とは、子どもを認可保育所等に入れるために保護者が行う活動であり、保育所の待機児童が多い地域で活発に行われる傾向がある。
- 4 8050問題とは、一般的には、80代の高齢の親と、50代の無職やひきこもり状態などにある独身の子が同居し、貧困や社会的孤立などの生活課題を抱えている状況を指す。
- 5 ワーキングプアとは、福祉給付の打ち切りを恐れ、就労を見合わせる人々のことを指す。
ワーキングプア：正社員やフルタイムで働いているにもかかわらず、生活保護の水準以下の収入しか得られない労働者

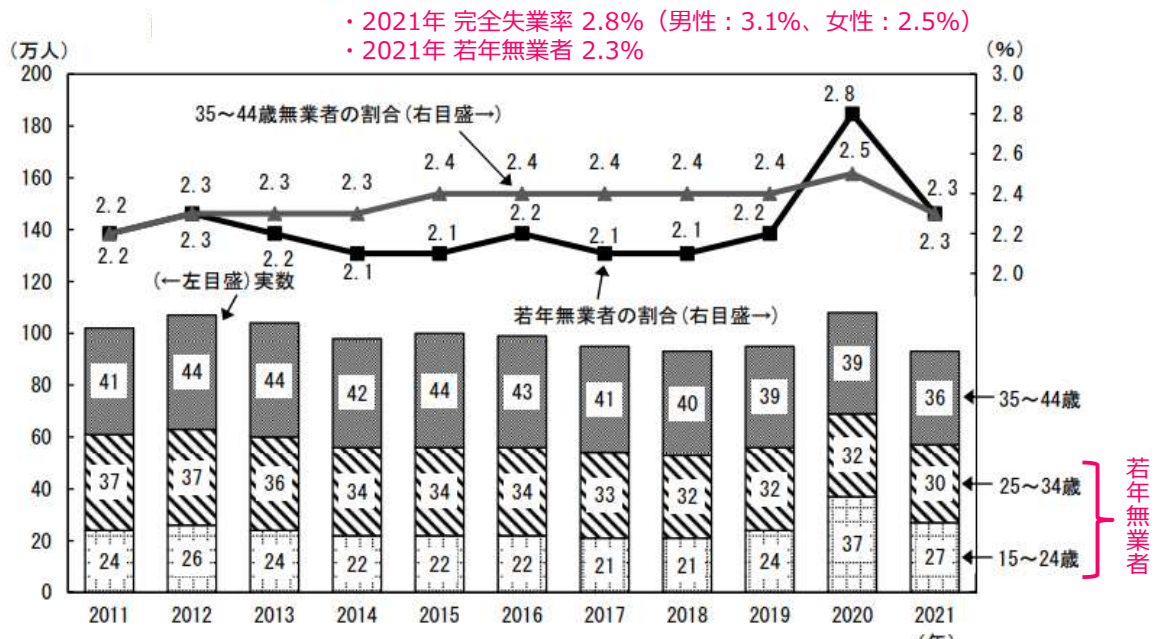
模擬問題

以下の事例を表す用語として、適切なものを2つ選べ。

Aさん（32歳、女性）の両親は、認知症の父親（70歳）を母親（65歳）が介護しており、Aさん自身も父親の介護を手伝っている。また、Aさんには幼い子どもがおり、育児のために仕事を休んでいる。

- 1 老老介護
- 2 認認介護
- 3 ダブルケア
- 4 ヤングケアラー
- 5 8050問題

2021年 労働力調査（基本集計）：若年無業者の推移



社会福祉士の責務・倫理綱領

公益財団法人

社会福祉士の行動規範

- I クライアントに対する倫理責任
- II 組織・職場に対する倫理責任
- III 社会に対する倫理責任
- IV 専門職としての倫理責任

日本社会福祉士会

社会福祉士の倫理綱領（6原理）

- ・人間の尊厳
- ・人権
- ・社会正義
- ・集団的責任
- ・多様性の尊重
- ・全人的存在

法的義務・責務

＜社会福祉士及び介護福祉士法＞

第四章 社会福祉士及び介護福祉士の義務等

- ・資質向上の責務
- ・誠実義務
- ・秘密保持義務
- ・信用失墜行為の禁止
- ・連携
- ・名称の使用制限

五義務

ソーシャルワークのグローバル定義

＜中核となる4任務＞

- ・社会変革
- ・社会開発
- ・社会的結束
- ・人々のエンパワメントと解放

ソーシャルワークのグローバル定義

＜中核となる4原理＞

- ・社会正義
- ・人権
- ・集団的責任
- ・多様性の尊重

国際ソーシャルワーカー連盟

社会福祉士及び介護福祉士法

1987年「社会福祉士及び介護福祉士法」成立
2007年「社会福祉士及び介護福祉士法」改正

5義務

2007年以前	2007年改正	登録取消	罰則
	誠実義務 社会福祉士及び介護福祉士は、その担当する者が 個人の尊厳を保持 し、自立した日常生活を営むことができるよう、常にその者の立場に立つて、誠実にその業務を行わなければならない。		
信用失墜行為の禁止	信用失墜行為の禁止	○	
秘密保持義務	秘密保持義務	○	一年以下の懲役又は三十万円以下の罰金
連携 医師その他の医療関係者との連携を保たなければならない	連携 社会福祉士は、その業務を行うに当たっては、その担当する者に、福祉サービス及びこれに関連する保健医療サービスその他のサービスが総合的かつ適切に提供されるよう、地域に即した創意と工夫を行いつつ、 福祉サービス関係者等との連携を保たなければならない。		
	資質向上の責務 社会福祉士又は介護福祉士は、社会福祉及び介護を取り巻く環境の変化による業務の内容の変化に適応するため、相談援助又は介護等に関する知識及び技能の向上に努めなければならない。		
名称の使用制限	名称の使用制限		三十万円以下の罰金

社会福祉士及び介護福祉士法

第三条（欠格事由）

次の各号のいずれかに該当する者は、社会福祉士又は介護福祉士となることができない。

- 一 心身の故障により社会福祉士又は介護福祉士の業務を適正に行うことができない者として厚生労働省令で定めるもの
- 二 **禁錮以上の刑に処せられ**、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなつた日から起算して**二年**を経過しない者
- 三 **この法律の規定その他社会福祉又は保健医療に関する法律の規定であつて政令で定めるものにより、罰金の刑に処せられ**、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなつた日から起算して**二年**を経過しない者
- 四 第三十二条第一項第二号又は第二項（これらの規定を第四十二条第二項において準用する場合を含む。）の規定により登録を取り消され、その取消しの日から起算して**二年**を経過しない者

模擬問題

次のうち、違反したときに社会福祉士の登録取消となる責務・義務を2つ選びなさい。

- 1 誠実義務
- ② 信用失墜行為の禁止
- ③ 秘密保持義務
- 4 連携
- 5 資質向上の責務

模擬問題

次のうち、違反したときに罰則規定がある社会福祉士の責務・義務を1つ選びなさい。

- 1 誠実義務
- 2 信用失墜行為の禁止
- ③ 秘密保持義務
- 4 連携
- 5 資質向上の責務

第34回 問題91

社会福祉士及び介護福祉士法における社会福祉士と、精神保健福祉士法における精神保健福祉士に関する次の記述のうち、これらの法律に明記されている共通する責務として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 集団的責任の保持 倫理綱領&グローバル定義の「原理」
- 2 権利擁護の促進 倫理綱領「倫理基準」クライアントに対する倫理責任
- 3 多様性の尊重 倫理綱領&グローバル定義の「原理」
- ④ 資質向上
 - ・ 資質向上の責務
 - ・ 誠実義務
 - ・ 秘密保持義務
 - ・ 信用失墜行為の禁止
 - ・ 連携
 - ・ 主治医の指導を受ける義務（精神保健福祉士のみ）
- 5 倫理綱領の遵守 倫理綱領（前文）

第29回 問題91

社会福祉士及び介護福祉士法に規定されている社会福祉士に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- ① 社会福祉士の名称使用は、登録後でなければならない。
- 2 業務を行うに当たっては、クライアントの主治医の指導を受けなければならない。
精神保健福祉士
- 3 専門性の維持・向上を目的として、資格更新研修を受けなければならない。
更新はない
- 4 所属する勤務先の立場を優先して業務を行わなければならない。
誠実義務（クライアントの立場に立って）
- 5 資質向上の責務として、相談援助に関わる後継者の教育指導に努めなければならない。
教育指導の責務はない

第33回 問題91

社会福祉士及び介護福祉士法に規定されている社会福祉士に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 社会福祉士は資格更新のため、7年ごとに所定の講習を受講しなければならない。
更新研修不要
- 2 社会福祉士は相談業務を行う上で、クライアントの主治医の指示を受けなければならない。
公認心理師
- 3 社会福祉士の「信用失墜行為の禁止」は、2007年（平成19年）の法律改正によって加えられた。
誠実義務、資質向上の責務
- 4 社会福祉士の「秘密保持義務」は、社会福祉士の業務を離れた後においては適用されない。
適用される
- 5 社会福祉士はその業務を行うに当たって、福祉サービス関係者等との連携を保たなければならない。

第30回 問題91

社会福祉士及び介護福祉士法で定められている社会福祉士の業務と義務に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 社会福祉士でなければ社会福祉士の名称を用いて業務を行ってはならない。
名称の使用制限
- 2 業務を行う上で主治医の指示を受けなければならない。
公認心理師
- 3 5年ごとに更新のための研修を受けなければならない。
更新研修不要
- 4 秘密保持の義務は、社会福祉士でなくなった後においては適用されない。
適用される
- 5 業務を行うに当たり、福祉サービス関係者等との連携を保たなければならない。